令和7年度 発生予察情報	**発生予報第2号（概要版）**	令和7年5月 21 日発行 宮城県病害虫防除所 （TEL：022-275-8982）

品目	病害虫名	発生予報	病害虫名	発生予報
りんご	斑点落葉病	発生量：多	ハダニ類	発生量：平年並
	アブラムシ類	発生量：やや多	―	―
なし	黒星病	発生量：平年並	アブラムシ類	発生量：多
きゅうり	うどんこ病	発生量：平年並	べと病	発生量：平年並
	ハダニ類	発生量：平年並	―	―
トマト	うどんこ病	発生量：平年並	アザミウマ類	発生量：やや多
	アブラムシ類	発生量：多	コナジラミ類	発生量：やや多
なす	うどんこ病	発生量：平年並	アザミウマ類	発生量：やや多
	アブラムシ類	発生量：やや多	ハダニ類	発生量：やや多

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。
宮城県病害虫防除所　https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/
次回、発生予報第3号の発行日は6月4日（水）の予定です。
★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★

宮城県病害虫防除所
トップページ

メルマガ
登録フォーム

令和7年度 発生予察情報	**発生予報第2号　ーりんごー**	令和7年5月 21 日発行 宮城県病害虫防除所

ー6月上旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:5月 12～15 日
天候予報:仙台管区気象台5月 15 日発表

1　発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
斑点落葉病	ー	多

予報の根拠
(1)前年の発生量は平年よりやや多かったことから、伝染源量もやや多いと推測される。(/＋)
(2)巡回調査の結果、新梢葉における発生地点率は平年よりやや高く、発病葉率は平年より高かった。(/＋)
(3)高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/＋)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	平年並

予報の根拠
(1)巡回調査の結果、新梢における寄生は確認されなかった。(/ー)
(2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/＋)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	ー	やや多

予報の根拠
(1)巡回調査の結果、新梢における発生地点率は平年よりやや高く、寄生新梢率は平年並だった。(/±～＋)
(2)乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

※　予報の根拠 (発生時期 / 発生量)
発生時期･･･(＋):遅くなる要因　(±):平年並になる要因　(ー):早くなる要因　(空欄):該当せず
発 生 量･･･(＋):多くなる要因　(±):平年並になる要因　(ー):少なくなる要因　(空欄):該当せず

2　防除のポイント

(1)共通事項

・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒しして降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。

・スピードスプレーヤによる防除は低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は発生源になりやすいことから補完散布する。

・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
・DMI 剤（FRAC コード：3）、QoI 剤（FRAC コード：11）及び SDHI 剤（FRAC コード：7）並びにこれらの混合剤は、耐性菌対策のため、それぞれ年間2回以内の使用とする。
・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

(2)斑点落葉病

・本病は、感染から発病までの潜伏期間が数日から7日程度と短い。防除間隔があきすぎないよう、定期的な予防防除に努める。

(3)ハダニ類

・ハダニ類の越冬量が多かったほ場では、早期から寄生密度が高くなる傾向にあるので、樹冠内部をよく観察し、**1葉当たり3頭以上**寄生している場合は防除を実施する。

(4)アブラムシ類

・発生が見られる場合は、他の害虫との同時防除とするが、寄生種により防除効果の高い薬剤を選定する。また、発生状況によっては追加防除を実施する。
・薬剤防除を行う際は、新梢等の寄生部位まで薬剤が行き渡るように散布する。

(5)果樹カメムシ類

・今回（5月 12 日～5月 15 日）のフェロモントラップ調査において、クサギカメムシの誘殺数が令和6年度調査及び前回調査（4月下旬）を上回った地点があった。（フェロモントラップ調査結果を参照： https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/trap.html ）
・摘果作業時にほ場内を注意深く観察し、被害果実を見つけ次第摘果するとともに、ほ場への飛来数が目立つ場合は、カメムシ類に登録のある農薬を散布する。

《お問い合わせ先》
宮城県病害虫防除所
〒981－0914　仙台市青葉区堤通雨宮町4－17
TEL：022－275－8982　FAX：022－276－0429
E-mail：byogai@pref.miyagi.lg.jp
★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
　発生予察情報の発表をお知らせしています★

宮城県病害虫防除所
トップページ

メルマガ
登録フォーム

令和7年度 発生予察情報	**発生予報第2号　ーなしー**	令和7年5月 21 日発行 宮城県病害虫防除所

ー6月上旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:5月 12～15 日
天候予報:仙台管区気象台5月 15 日発表

1　発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
黒星病	ー	平年並

予報の根拠
(1)前年の発生量は平年より少なかったことから、伝染源量は少ないと推測される。(/ー)
(2)巡回調査の結果、発病は確認されなかった。(/ー)
(3)本病の発生には気温 20℃前後で多雨が好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/±～＋)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	ー	多

予報の根拠
(1)巡回調査の結果、発生地点率及び寄生新梢率は平年より高かった。(/＋)
(2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/＋)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

※　予報の根拠 (発生時期 / 発生量)
発生時期・・・(＋):遅くなる要因　(±):平年並になる要因　(ー):早くなる要因　(空欄):該当せず
発 生 量・・・(＋):多くなる要因　(±):平年並になる要因　(ー):少なくなる要因　(空欄):該当せず

2　防除のポイント

(1)共通事項

・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒しして降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。

・スピードスプレーヤによる防除は低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は発生源になりやすいことから補完散布する。

・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
・本県では現在まで DMI 剤(FRAC コード:3)、QoI 剤(FRAC コード:11)、SDHI 剤(FRAC コード:7)の耐性菌は確認されていないが、今後もこれらの混合剤を含めた使用は、それぞれ年2回以内とする。

・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

(2)黒星病

・過繁茂にならないように新梢を管理するとともに、伝染源となる果そう基部病斑(図1)、発病葉(図2)及び発病果(図3)の早期発見・除去に努め、ほ場外に持ち出して土中深く埋めるなど適切に処分する。

・本病の感染から発病までの潜伏期間は 14～30 日とされている。防除間隔があきすぎないよう、定期的な予防防除に努める。

図1　果そう基部病斑

図2　葉脈の病斑

図3　果実病斑

(3)アブラムシ類

・発生が見られる場合は、他の害虫との同時防除とするが、寄生種により防除効果の高い薬剤を選定する。また、発生状況によっては追加防除を実施する。

・薬剤防除を行う際は、新梢等の寄生部位まで薬剤が行き渡るように散布する。

(4)果樹カメムシ類

・今回(5月 12 日～5月 15 日)のフェロモントラップ調査において、クサギカメムシの誘殺数が昨年度調査及び前回調査(4月下旬)を上回った地点があった。(フェロモントラップ調査結果を参照: https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/trap.html)

・摘果作業時にほ場内を注意深く観察し、被害果実を見つけ次第摘果するとともに、ほ場への飛来数が目立つ場合は、カメムシ類に登録のある農薬を散布する。

《お問い合わせ先》
宮城県病害虫防除所
〒981－0914　仙台市青葉区堤通雨宮町4－17
TEL:022－275－8982　FAX:022－276－0429
E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp
★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
　発生予察情報の発表をお知らせしています★

宮城県病害虫防除所
トップページ

メルマガ
登録フォーム

令和7年度 発生予察情報	**発生予報第2号－きゅうり－**	令和7年5月 21 日発行 宮城県病害虫防除所

－6月中旬までの発生予報と防除のポイント－

巡回調査:5月 12～15 日

天候予報:仙台管区気象台5月 15 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	ー	平年並

予報の根拠

(1) 巡回調査の結果、発生地点率及び発病葉率は平年並であった。(/±)

(2) 温度 15～28℃が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
べと病	ー	平年並

予報の根拠

(1) 巡回調査の結果、発生地点率及び発病葉率は平年並であった。(/±)

(2) 温度 20～24℃で多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/＋)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	平年並

予報の根拠

(1) 巡回調査の結果、寄生は確認されなかった。(/±)

(2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/＋)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)
発生時期・・・(＋):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):早くなる要因 (空欄):該当せず
発 生 量・・・(＋):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

・発生はほ場ごとに差があるため、ほ場の見回り等による早期発見に努める。

・薬剤防除は罹病葉等を取り除き、ほ場内の伝染源を減らしてから、葉裏にも十分かかるよう散布する。

・ウイルス病の発病株は、見つけ次第抜き取り施設外へ搬出し適切に処分する。

・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/boujosisinn.html

(2)うどんこ病

・肥料切れや着果過多、樹勢の低下は発病を助長するため、適切な栽培管理を行う。

(3)べと病、褐斑病

・多発してからの防除は困難なので、発病前から計画的に系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

・多湿や昼夜の温度差で結露量が増えると発病が助長されるため、過繁茂とならないよう老化した葉などはできる限り除去し、通風と薬剤の付着性を高める。

(4)ハダニ類

・気温の上昇とともに発生量が増加するため、早期発見及び早期防除に努める。

・多発すると1回の薬剤散布のみでは散布ムラ等で十分な効果が得られない場合があるので、薬剤散布の3～5日後にハダニ類が寄生していた場所を観察し、虫の有無や薬剤の効果を確認する。効果が見られなかった場合は、気門封鎖剤も含めて系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

《お問い合わせ先》
宮城県病害虫防除所
〒981－0914　仙台市青葉区堤通雨宮町4－17
TEL:022－275－8982　FAX:022－276－0429
E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp
★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★

宮城県病害虫防除所
トップページ

メルマガ
登録フォーム

令和7年度 発生予察情報	**発生予報第2号ートマトー**	令和7年5月 21 日発行 宮城県病害虫防除所

ー6月中旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:5月 13～15 日

天候予報:仙台管区気象台5月 15 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	ー	平年並

予報の根拠

(1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/±)

(2) 温度 18～28℃が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	ー	やや多

予報の根拠

(1) 巡回調査の結果、寄生は確認されなかった。(/±)

(2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/＋)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	ー	多

予報の根拠

(1) 巡回調査の結果、発生地点率は高く(/＋)、寄生頭数は多かった。(/＋)

(2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/＋)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	ー	やや多

予報の根拠

(1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生株率は平年並であった。(/±)

(2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/＋)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)
発生時期・・・(＋):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発 生 量・・・(＋):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

・発生はほ場ごとに差があるため、ほ場の見回り等による早期発見に努める。

・施設周辺の雑草は害虫の発生源となるので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm 目合い)を設置する。

・ウイルス病の発病株は、見つけ次第抜き取り施設外へ搬出し適切に処分する。
・植物体の過繁茂は、病害の発生を助長するほか、薬剤の散布ムラや病害虫の発生を見落とす可能性があるので、適切に栽培管理を行う。また、病害虫が多発してからの防除は困難なので、初期防除の徹底を心がける。
・前作のすすかび病等の病原菌が付着した誘引資材（クリップ等）が、新しい作の第１次伝染源になる事例が報告されているため、使用前に適宜消毒してから使用する。
・訪花昆虫を利用する場合は、訪花昆虫の影響日数に注意して使用薬剤を選択する。
・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/boujosisinn.html

（2）うどんこ病
・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、気門封鎖剤も含めて系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

（3）アザミウマ類
・野外では5～7月の各種雑草の開花期に発生量が多くなるので、施設内への飛込に注意する。また、ほ場周辺の除草に努める。
・発生が多い場合は7日間隔で2～3回系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

（4）アブラムシ類
・多発すると排泄物（甘露）によるすすが発生するため、ほ場をよく見回り、施設内への侵入防止と発生初期からの防除を徹底する。

（5）コナジラミ類
コナジラミ類
・コナジラミ類にはオンシツコナジラミとタバココナジラミ（図1）がおり、タバココナジラミは黄化葉巻病（病原ウイルス：*Tomato yellow leaf curl virus* 、TYLCV）（図2）を媒介する。令和6年度は県内の広い地域で黄化葉巻病が確認されたので注意する。

図1　タバココナジラミ成虫
体長約1mm。翅は白色だが、体色が黄色っぽく、羽が重なり合っていないのが特徴。

図2　黄化葉巻病の症状
発病初期は葉縁部から黄化して葉巻症状を示す。

・コナジラミ類の寄生密度が高くなると、排泄物で果実や葉が汚れたり、タバココナジラミでは果実の着色異常が起こるので、ほ場をよく見回り、発生初期からの防除を徹底する。

黄化葉巻病
・本病は種子伝染、土壌伝染、作業等による汁液伝染はせず、タバココナジラミによる虫媒伝染である。

・防除対策としては、媒介虫を**①施設内に侵入させない**、**②施設内で増殖させない**、また、伝染環を絶つため**③トマトの栽培終了後、生きたまま媒介虫を施設外に逃がさない**ことが重要となる。

①施設内に侵入させない	・0.4mm 目合い以下の防虫ネットを設置する。 ・育苗期から粒剤やかん注剤等も活用し、コナジラミ類の防除を徹底する。 ・ウイルス病の感染が疑われる株を定植しない。
②施設内で増殖させない	・発病後は、開花しても結実しないことが多く、生育初期に感染すると収量が激減することから、定植初期からタバココナジラミの防除を実施する。 ・タバココナジラミの発生が低密度でもウイルスを媒介するため、黄色粘着トラップ等を設置し、訪虫の有無等を観察する。発生を確認したら、発生が初期のうちに防除を行う。 ・黄化葉巻病の発病株を発見したら、すぐに抜き取り、土中へ埋設またはビニール袋等で密封し枯死させてから処分する。 ・薬剤抵抗性が発達しないよう系統の異なる薬剤をローテーション散布する。また、薬剤抵抗性の発達しにくい気門封鎖剤や微生物農薬も活用する。 ・黄化葉巻病耐病性品種は、黄化葉巻病に感染後、表面上は発病していなくても保毒して伝染源になるため、タバココナジラミの防除は感受性品種と同様に確実に行う。
③トマトの栽培終了後、生きたまま媒介虫を施設外に逃がさない	・栽培終了後に施設を密閉し、株を切断もしくは伐根し、植物体を完全に枯らす。更に 10 日以上密閉処理を継続し、確実に施設内で死滅させる。

(6)トマトキバガ

・県内に設置しているフェロモントラップやほ場において飛来や被害が確認されているため、注意する。

・発生が確認された際は、トマトキバガに登録のある農薬を散布する。

・発生が疑われた場合は、最寄りの農業改良普及センターまたは病害虫防除所へ連絡をお願いします。

宮城県病害虫防除所のサイトにトマトキバガのチラシを掲載していますので、参考にしてください。

https://www.pref.miyagi.jp/documents/52307/chirashi.pdf

《お問い合わせ先》
宮城県病害虫防除所
〒981－0914　仙台市青葉区堤通雨宮町4－17
TEL:022－275－8982　FAX:022－276－0429
E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp
★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★

宮城県病害虫防除所
トップページ

メルマガ
登録フォーム

令和7年度 発生予察情報	**発生予報第2号－なす－**	令和7年5月 21 日発行 宮城県病害虫防除所

－6月中旬までの発生予報と防除のポイント－

巡回調査:5月 12～14 日

天候予報:仙台管区気象台5月 15 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	ー	平年並

予報の根拠

(1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/－)

(2) 温度 25～28℃、湿度 50～80%が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/＋)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	ー	やや多

予報の根拠

(1) 巡回調査の結果、発生地点率はやや高く(/＋)、寄生花率は平年並であった。(/±)

(2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/＋)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	ー	やや多

予報の根拠

(1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生頭数は平年並であった。(/±)

(2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/＋)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	やや多

予報の根拠

(1) 巡回調査の結果、寄生は確認されなかった。(/±)

(2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/＋)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)
発生時期・・・(＋):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):早くなる要因 (空欄):該当せず
発 生 量・・・(＋):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

・発生はほ場ごとに差があるため、ほ場の見回り等による早期発見に努める。

・施設周辺の雑草は害虫の発生源となるので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット（0.4mm 目合い）を設置する。
・天敵製剤や訪花昆虫を使用しているほ場では、天敵や訪花昆虫への影響日数に注意して使用する薬剤を選択する。
・同一薬剤を多用すると抵抗性が発達する恐れがあるので、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/boujosisinn.html

（2）うどんこ病

・多発してからの防除は困難なので、発病前から計画的に系統の異なる薬剤をローテーション散布する。
・DMI 剤（FRAC コード：3）、QoI 剤（FRAC コード：11）および SDHI 剤（FRAC コード：7）並びにこれらの混合剤は、耐性菌対策のため連続しての散布を避け、それぞれ年間2回以内の使用とする。
・肥料切れや着果過多、樹勢の低下は発病を助長するため、適切な栽培管理を行う。

（3）アザミウマ類

・野外では5～7月の各種雑草の開花期に発生量が多くなるので、施設内への飛込に注意する。また、ほ場周辺の除草に努める。

（4）アブラムシ類

・春から初夏にかけて有翅虫の飛来が多く、防除を怠ると施設内で急激に寄生数が多くなるので注意する。
・多発すると排泄物（甘露）によるすすが発生するため、ほ場をよく見回り、施設内への侵入防止と発生初期からの防除を実施する。

（5）ハダニ類

・気温の上昇とともに発生量が増加するため、早期発見及び早期防除に努める。
・多発すると1回の薬剤散布のみでは散布ムラ等で十分な効果が得られない場合があるので、薬剤散布の3～5日後にハダニ類が寄生していた場所を観察し、虫の有無や薬剤の効果を確認する。効果が見られなかった場合は、気門封鎖剤も含めて系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

《お問い合わせ先》
宮城県病害虫防除所
〒981－0914　仙台市青葉区堤通雨宮町4－17
TEL：022－275－8982　FAX：022－276－0429
E-mail：byogai@pref.miyagi.lg.jp
★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★

宮城県病害虫防除所
トップページ

メルマガ
登録フォーム